

生活に関する調査(概要)

平成 29(2017)年 3 月

バブル経済が崩壊する 1990 年代から、青少年の自立に大きな役割を果たしてきた家庭、地域、企業等の力が弱まり、社会環境が大きく変化する中で、家庭の貧困との関係や小中学校での不登校、高校中途退学、若年無業者、非正規雇用労働者などが社会問題として取り上げられるようになりました。また、一旦こうした状況になると、正規雇用での就職が難しいことなどから「ひきこもり」状態に陥り、脱却のきっかけを見失うなどさらに長期化・深刻化するケースも増え、近年では、40歳以降の世代についても同様の傾向がみられるようになりました。

今回の調査は、別途実施した「若い世代の生活に関する調査(対象:満15歳~39歳の者及びその家族)」では対象とならない、満40歳から45歳の者及びその家族を対象に実施することで、平成22年度に行った「若者等の自立・就労実態調査(対象:満15歳~39歳の者及びその家族)」実施時に「35歳~39歳」であった者の現状を追跡するとともに、「ひきこもり」に該当する者等への支援方策の検討につなげることを目的として実施しました。

(1) 生活に関する調査(本人票)

調査対象	豊中市内在住の満40歳から45歳までの方から無作為抽出
調査方法	調査員による訪問・ポスティング・郵送回収
調査期間	平成28年11月22日~平成28年12月28日
対象者数	947件
有効回収数	360件
有効回収率	38.0%

(2) 生活に関する調査(家族票)

調査対象	豊中市内在住の満40歳から45歳までの方が含まれる世帯を無作為抽出
調査方法	調査員による訪問・ポスティング・郵送回収
調査期間	平成28年11月22日~平成28年12月28日
対象世帯数	947件
有効回収数	338件
有効回収率	35.7%

(3) ひきこもり群・ひきこもり親和群の推計

40歳～45歳人口 40,596人

(全人口403,795人。平成28年10月)

1) ひきこもり群 7.50%

推計 最小値 1,598人 最大値 4,491人

中間値 3,045人

2) ひきこもり親和群 4.72%

推計 最小値 1,006人 最大値 2,828人

中間値 1,917人

(4) 若い世代の生活に関する調査(個人票)の主な項目

	豊中市	
	ひきこもり群	ひきこもり親和群
出現率	7.50%	4.72%
性別	男 63.0%	男 41.2%
	女 37.0%	女 52.9%
通学中	0.0%	0.0%
既卒	92.6%	82.4%
中退	3.7%	5.9%
休学中	0.0	0.0
中学校卒	11.1%	5.9%
高等学校卒(※)	25.9%	29.4%
専門学校卒	18.5%	11.8%
短大卒	7.4%	17.6%
大学(院)卒	25.9%	29.4%
その他	11.1%	5.9%
就業	11.1%	70.5%
学生等	0.0%	0.0%
無職・主婦	70.4%	11.8%
派遣登録しているが無職	11.1%	5.9%
無職者のうち就業経験あり	72.7%	100.0%

	ひきこもり群	
現在の状態になった 年齢	～14 歳	0.0%
	15～19 歳	14.8%
	20～24 歳	18.5%
	25～29 歳	3.7%
	30～34 歳	18.5%
	35～39 歳	29.6%
	40～45 歳	14.8%
現在の状態になって からの期間	6 月～1 年未満	0.0%
	1～3 年未満	3.7%
	3～5 年未満	7.4%
	5～7 年未満	18.5%
	7 年以上	70.4%
現在の状態になった きっかけ	① 病気	37.0%
	② 人間関係がうまくいかなかった	22.2%
	③ 職場になじめなかった	14.8%
	④ 就職活動がうまくいかなかった	11.1%
相談意向	意向あり	55.5%
相談機関に対する希 望	① 親身に聞いてくれる	40.7%
	② 精神科医がいる	37.0%
	③ 無料で相談できる	33.3%
	④ 医学的な助言をくれる	25.9%
	④ 自宅に近い	25.9%
相談したくない理由 (上位 3 項目)	① 相手にうまく話せないと思う	
	② 相談しても解決できないと思う	
	③ 何をきかれるか不安である	

(※)定時制・通信制・サポート制含む。

(5) 今後の取組み

今回の調査によって、本市における40歳から45歳における「ひきこもり」等の現状を初めて確認できました。「ひきこもり群」の推計（出現率）は、15歳から39歳までと比較すると、5.87ポイント高くなっており、「ひきこもり親和群」の推計（出現率）は、0.91ポイント減少しています。

「ひきこもり群」のうち、「現在の状態になってからの期間」をみると、「7年以上」が70.4%となっており、ひきこもり状態の長期化の実態が明らかになりました。また、「現在の状態になった年齢」が、「35～39歳」で29.6%、「40～45歳」で14.8%となっており、比較的高い年齢から「ひきこもり」状態になる方の存在も明らかになりました。

豊中市では、地域就労支援事業のほか、生活困窮者自立支援法に基づく「くらし再建パーソナルサポート事業」による相談・支援の拡充に取り組んでいます。

また、平成27年度に豊中市若者支援構想を策定するとともに、平成28年度には豊中市子ども・若者支援協議会を設置し、「ひきこもり」をはじめとする困難を有する子ども・若者への相談・支援にも積極的に取り組んできました。

今後は、今回の調査結果をはじめこれまでの各分野における取組みを踏まえながら、「ひきこもり」状態にある方へ相談窓口等に関する情報の周知を図るとともに、就労支援、福祉、医療等の関係部局及び民間の支援機関や企業等とも連携を図り、個々の状況に応じたきめ細やかな相談・支援体制の充実に向けて取り組みます。